

意見書「今後の進め方について」

2005 年 3 月 28 日作成

2005 年 4 月 11 日改訂

2005 年 4 月 17 日改訂

武庫川流域委員会  
委員長 松本 誠 様

委員 中川芳江

日ごろの武庫川流域委員会へのご尽力に深謝致します。

今後の武庫川流域委員会の進め方について、以下の意見（提案）を提出致します。よろしくご検討下さい。

なお、本意見書は、今後の委員会の審議課題とワーキンググループの関わり等、今後の進め方についてご提案申し上げた提案書「今後の進め方について」（第 19 回、第 20 回運営委員会提出）をもとに意見書として提出させて頂くものです。

1、武庫川流域委員会の目的について（審議課題について）

改めて言うまでもなく本委員会の目的は「武庫川との折り合いのつけ方」の合意形成を図ることです。そのための約 1 年間の準備会議を経て、本委員会が設置され 1 年が経過しました。現在、委員会の開催はほぼ 2 週間に一度、運営委員会を含めるとほぼ毎週開催と頻度は高いものの、私達は未だに折り合いのつけ方についての具体的な解のひとつも編み出せずにあります。

本委員会の審議課題は「武庫川との折り合いのつけ方」であって、武庫川との具体的な付き合い方について本委員会で議論することによって「武庫川とどう付き合っていくか」の解を見出していくことです。しかし残念ながら、この目的が必ずしも委員の間での共通認識になっていないのではないかと危惧しております。

本委員会では、治水面、利水面、環境面、都市計画面など様々な方面からの武庫川に対する“要請”“期待”や武庫川に対して“できること”を前提に、それらの各方面の「利害」対立を踏まえた折り合いのつけ方を、具体的な付き合い方を通して議論する必要があります。

従って、本委員会では、各方面の“要請”“期待”“できること”を整理して、各方面の“要請”“期待”“できること”の利害について議論し折り合いをつけること、をしなければならないと考えます。（例を挙げれば、魅力ある武庫川づくりの方面からの河川高水敷の高度利用の期待と、治水方面からの河積増加の要請と、環境面からの河川の生物多様性確保の要請について、どこで折り合いをつけるかを議論するのが本委員会の使命です。「高水敷の高度利用」「河積増加」「河川の生物多様性確保」を列挙することは、議論の出発点であって結論（提言）ではないと考えます。）

本委員会での円滑な審議を推進するために設置された各ワーキンググループは、上記の機能を担い、本委員会ではそれらを基に折り合いのつけ方を議論すること（ ）が求められていると考えます。本委員会の役割は、各ワーキンググループから出された“要請”“期待”“できること”を整理して列挙することではなく、従って、ワーキンググループから本委員会に提供されるアウトプット（成果物）には、本委員会の議論の出発点となるものがまず求められると考えます。（本委員会での中心的な議論に沿わないと考えられる事項のワーキンググループ内での検討については、優先度を考慮する必要があります。本委員会の議論の出発点として提供される成果物の作成に、より高い優先度を置いた上で、それらの検討・作成とすることが求められると思います。）

2、「折り合いのつけ方」議論のための具体的な切り口

武庫川との折り合いのつけ方は、具体的な議論に基づく必要があります。そこでその具体的な議論の切り口として、次ページに私案ながら具体的な「折り合いのつけ方」議論の切り口を提案致します。これらの切り口は「総合治水」を議論することにもつながります。また本委員会が用いている議論のフローで表現すると、フロー B に相当する議論が多く含まれます。

これらの切り口の議論の中で、治水面、利水面、環境面、都市計画面など様々な方面からの利害についての議論を交わすことに、本委員会が早急に向かうことを強く提案したいと思います。これらの議論の結果として最終的に「武庫川との折り合い」をつけた提言ができるものと考えています。同時に、ワーキンググループが担う役割もこの点を前提とし、その作業がワーキンググループ内で最優先に取り組みられる必要があると考えます。

なお、切り口は他にもあると思いますし、切り口そのものについて本委員会での議論も必要と考えます。切り口の追加や修正については各委員からの具体的なご提案をお願いしたいと思います。

「折り合いのつけ方」議論のための具体的な切り口（私案による提案）

川との付き合い方	手段	切り口 (検討項目)	検討内容例
防ぐ	流域貯留	調整池	既設調整池の運用改善、設置基準（土地利用）の検討
		ため池	治水運用の可能性検討
		校庭	貯留運用の可能性検討
		空地・グランド等	貯留運用の可能性検討
		農地	農地・放棄田等貯留運用の検討
		雨水貯留	公共施設等での貯留検討、雨水道内貯留
		家庭内貯留	雨水貯留、浸透柵、排水抑制検討
		遊水地	計画的遊水地の検討
		ダム	既存利水ダムかさ上げ等検討（新設ダムは検討済み）
	流域浸透	森林	森林機能検討、森林回復等検討
		透水性舗装	方策検討
		河川整備工法	在来工法等
		市街地緑化	
	河川対策	堤防	堤防強化や堤防のあり方の検討
		高水敷	掘削検討、治水・環境・活用の適正利用検討
		在来工法	利用の検討
		河道内工作物（堰含む）	治水・環境・利水等から見た適正配置検討
		護岸・河床工事	
		河床掘削	
	土砂管理	土砂対策	生態系や治水とバランスの取れた対策検討
	排水	内水対策	対策検討
		下水処理	処理方式検討
	逃げる	備える	事前評価
防災計画			初期防災オペレーションの構築
警戒・予報			ハザードマップ、災害履歴情報公開等検討、降雨到達・洪水予報検討
恒常的避難			開発抑制、河川近隣土地利用規制等の検討、耐水性建設等の検討
破堤・越堤			対策検討
災害時		避難	災害時避難訓練
		体制	初動対策体勢
あきらめる	再建	基金	流域基金の設置可能性検討
・・・	・・・	・・・	・・・

\* 検討内容の記述は例示であり、すべての切り口における議論において治水面、利水面、環境面、都市計画面等各方面からの視点を含めて議論することを想定しています。